

これまでの活動報告

10月
 まちづくり・活性化特別委員会
 明治産業革命遺産における強制動員の歴史
 を伝えるZOOM講演会
 豪雨災害検証委員会傍聴
 えるる防災カフェ
 三川ポンプ場視察
 議会報告会



11月
 まちづくり市民会議総会（商工会議所）
 福祉避難所についての講演（筑紫野市議会）
 豪雨災害検証委員会傍聴
 暴力追放決起集会（文化会館）
 臨時議会
 補装具についての福岡県との意見交換

12月
 床下浸水の対応方法講習会（えるる）
 12月議会
 連合福岡制度要求（市長室）
 大牟田市防災会議
 暴力追放決起集会（文化会館）
 よらんかん餅つき



これからの活動予定

1月
 議会研修会／体験談講演（春美会）
2月/3月
 3月議会（一般質問） 予算特別委員会

お困りごとなどご相談ください

でんわ：090-2517-4005
 ファックス：0944-85-0028
 E-mail: furusho_net@hotmail.com

4月からの地域包括支援センター

地域包括支援センターとは、地域住民すべての心身の健康の維持、生活の安定、保健・福祉・医療の向上と増進のために必要な援助、支援を包括的に担う地域の中核機関として平成18年4月1日に創設されました。

- 保健師（又は看護師）、社会福祉士、ケアマネが
- ①介護予防（要支援1・2のケアプラン作成）
- ②総合相談（必要な支援・サービス等の調整）
- ③権利擁護（認知症や知的、精神障害など判断能力が十分でない方の契約や金銭管理の支援）
- ④一人一人が住み慣れた地域で安心して暮ら続けられるための調整や体制づくり

に対応されています。
 大牟田市では4か所から6か所に増えました。
 この4月からの6年間のセンターの運営については、委託費の引き上げや市外からも募集したものの、6か所のうち3か所しか決まっていません。

中央 三池	静光園 医師会	決定	吉野 手鎌	決定して いません
駿馬勝立	東翔会		三川	

4月からの体制を検討されています。
 地域包括支援センターは、高齢者や家族などの「よろず相談所」のような存在で、高齢社会や介護保険には必要なセンターです。手を挙げるところがない理由を考えながら、後期高齢者がピークを迎える「2025年」に備える必要があります。

【後援会入会のごあんない】
 本会は古庄和秀の活動を支援し、誰もが安心して暮らせる大牟田市になるように取り組んでいます。ご賛同頂く方は入会下さい
年会費 1000円
 連絡先：090-2517-4005
 FAX：0944-85-0028
 メール：furusho_net@hotmail.com
 入会頂かなくてもニュースはお届けします。

【第2部：ご投稿と活動報告など】

読者からのご投稿：生きて踊ろう～コロナ禍での自閉っ子との暮らし

コロナで私たちの生活は大きく変わりました。どんなお店にも足型マークがあり、トイレのハンドドライヤーが音を立てなくなりました。窮屈だと感じている方も多いのでは？でも私たちにとって以前よりも少しですが暮らしやすくなった部分もあるんです。

息子は知的障害があり感覚過敏の特性をもつ自閉っ子です。目で見て物事を判断している息子にとって、足型マークはここに並ぶ事を理解させてくれる優しいアイテム。反対にハンドドライヤーの音は耐え難く、過敏な聴覚を攻撃してくる天敵。なので今は外出先でも安心してトイレに行けます。逆にマスクは中々出来ません。耳の後ろにかかるゴムの感覚が人の何倍もあるのでしょうか、不快で不快でたまらないのです。呼吸もどうしていいか分からなくなる様です。放課後等デイサービスでの練習や本人の努力を続け…学校再開の頃には、マスクのゴムをイヤーマフ（音を軽減させるヘッドホン）にかけ短時間なら出来る様になりました。学校の先生方はとても喜んで褒めてくれました。

ただ…マスクを噛んでしまうのでランドセルには予備のマスクを5～6枚入れています。マスクをしたくないんじゃない、理由があっても出来なくて、その後ろめたさを感じながら生活している家族が居るんです。



【イヤーマフと布マスクをつけた様子】

「コロナ禍の社会変化に、誰もが不便を感じて、全ての人が障がい者になった様なものだ」という話があります。でも、もともと困難を抱えて過ごしていた私たちは、更なる困難を受けています。日々折り合いを付けながら歩んで



【登校の様子】

いた私たちは置き去りにされる事が増えました。それでも今があるのは、息子の特性を心配してくれる友人からのメール、布マスクを譲ってくれた方々、繋がっていた医療や福祉・教育の方々がいたからです。制限される日々の中でも「いつも通り」の生活を残すことが出来、何とかしがみついで生きてこれました。「つながり」の中に明日を生き抜くアイデアがたくさんありました。皆さま、いつも本当にありがとう。



【カヌー教室の様子】

変わっていく生活様式の中でも、自分たち家族を大切にしてくれる人たちがいて、地域の中で生活続ける事が出来ています。みんなが困難を抱えている今だけど、つながりや温もりを大切に少しでも笑って過ごしたい。人が人を想う気持ちを広げていきたい。当事者の母であり、作業療法士として発達支援に携わる私のまじめなつぶやきです。 叶 麻美

7月豪雨後の活動報告

10月号では代表質問と支援策を中心に報告しましたので、少し遅くなりましたが、7月豪雨についての活動を報告します。

じもと でんどうくるま かくにん 地元を電動車いすで確認

1. 被害状況を記録するため独自の地図を作成

以下のように明治校区と栄町、旭町、東新町周辺を電動車いすで回り地図を作りました。

必要な方はお渡ししますのでご連絡下さい。
【明治校区：大黒町交差点周辺が最も被害が大きく、多くの医療機関で浸水被害がありました】



【旭町周辺：多くの店舗で床上、床下浸水の被害がありました】



2. 個別の被害相談に対応

明治校区を電動車いすで回りながら、様々なお話を伺いました。一部を紹介します。

①自宅と店舗が浸水したが、被災者住宅支援の市営住宅などは明治校区から遠い。

②借家の自宅が床上浸水し、高齢者施設に在る。⇒近くの民間借家に一時入居できることを紹介

③床下浸水には支援策がない ⇒9月末に決定した義援金では、床下浸水世帯についても、「準半壊に至らない(一部損壊)」以上の区分であれば、義援金8万円を配分することを伝えました。

④災害廃棄物をどこに捨てていいかわからない ⇒諏訪公園、手鎌北町公園、宮浦公園を紹介

⑤障害者の自宅が被災した ⇒被災障害者支援NPO「ゆめ風基金」を紹介

⑥会社の車や設備が水没した

⑦会社のビルの屋上がプールのようになり、雨漏りする ⇒会社やお店などは、大牟田市としての上乗せはあるものの国の支援策は少なかったです。

- ・なりわい再建支援補助金 8件
- ・持続化補助金(令和2年7月豪雨型) 71件

そのほか、以下のようなご意見を伺いました。

- ・70年、80年暮してきて初めての経験だった
- ・浸水したので家具や電気製品を2階などへ移動させようとしたが、30分もしないうちに水が上がってきた。
- ・車が浸水したまま道路を進んだため、道路沿いのシャッターやガラスのドアが壊れた。
- ・片付けて災害廃棄物を仮置き場に移動するにあたり、軽トラックの手配に苦労した。
- ・必要な支援は「カネ、カネ、カネ」。等

三川ポンプ場と白川ポンプ場を視察しました。(10月26日)

議員の希望者で現地視察し説明を聞きました。

【三川ポンプ場の施設概要】

- 昭和38年 三川地区の浸水緩和のため 供用開始(エンジンポンプ3台)
 - 昭和56年頃 水中ポンプの増設2台
 - 平成2～13年 幹線水路の整備を実施
 - 平成4年 水中ポンプの増設7台
- 現在のポンプ状況合計12台
排水能力 645m³/分

エンジンポンプ室の7月6日当日の状況

7月6日14時30分からエンジンポンプ3台、電動水中ポンプ9台全てを稼働させ排水を行っていましたが、配電盤への水の侵入により20時15分に電動水中ポンプ9台、エンジンの浸水により20時30分にエンジンポンプ3台の稼働を停止せざるを得なくなりました。

【当日の様子】 【現在の様子】



三川ポンプ場の災害復旧工事の考え方

- ・隣接する樋口公園用地の敷地を最大限活用し、整備する
 - ・可能な限り排水機能を現状より増強し、強化を図る
 - ・災害復旧事業では原状復旧が原則なので、
- ①現在の排水能力である毎分645立方メートルまでがその対象
 - ②それを超える増強部分は、国・県と相談し、災害復旧事業と併せて防災・安全社会資本整備交付金等を活用し、整備したい。

来年度の梅雨に向けて

①現在：仮復旧の645立方メートルの能力

②追加補強：毎分50立方メートルの排水能力を持つポンプ2台を常設

③耐水補強：エンジンポンプ室周りをブロック塀で囲み、配電盤を上を上げ、浸水しても少しでも動くようにする

【白川ポンプ場の施設概要】

大黒町ポンプ場に比べると2倍以上の能力です。

	大黒町ポンプ場	白川ポンプ場
排水能力	444m ³ /分	732m ³ /分
降雨強度	40ミリ/時間	64.4ミリ/時間

■現地視察でのやり取り

- ・7月豪雨では大黒町、城町、椿黒町では、浸水の深さが違っていった。地域住民に当時の様子を聞き取り、白川ポンプ場ができた後は浸水被害がないようにして頂きたい。
- ・工事が遅れているため、夜間工事が行われるときは、地域住民の生活に影響がないようにして頂きたい。

■大黒町ポンプ場はどうなるの？

今年の梅雨前には白川ポンプ場が動き出しますが、昨年の7月豪雨のような短時間集中豪雨に備え、いつでも大黒町ポンプ場を動かせるように準備しておくそうです。

